

兵庫県・京都府・鳥取県知事会議議事概要

1．日時：平成19年8月29日(水) 16:00～17:50

2．場所：兵庫県公館第1会議室

3．概要：

(1)あいさつ

(井戸知事)

- ・知事に就任してから、鳥取、京都、徳島等隣県知事会議を開催してきた。今回は日本海側の3府県の課題を中心に議論するため集まっていた。
- ・交通基盤整備等、連携も進んできているが、一方で課題も多くある。
- ・新安倍内閣が発足し総務大臣に増田前岩手県知事が就任された。「分権の旗手」の一人の増田さんを押し立てて、地方分権を進めていきたい。
- ・共通する話題について、情報交換も交えながら議論していきたい。

(山田知事)

- ・新安倍政権における増田総務大臣の就任の背景に、地方の問題、特に地域間格差の問題がある。今回の参議院選挙の争点にもなっており、自民党の大敗につながった。
- ・3府県とも県内における地域間格差の問題を抱えている。特に太平洋側と日本海側の格差の問題は、医師確保問題をはじめとして、深刻である。
- ・一方では、中国・韓国等と密接に関連する環日本海沿岸の将来を大きく牽引する地域でもある。
- ・共通の課題を持つ3府県がしっかりと連携し、その中で政策を進めていくことが大切。
- ・もともとこの知事会議のメインの話は鳥取豊岡自動車道路であり、開通を機に新しい国土軸の形成へとつながっていくだろう。

(平井知事)

- ・今まで2県の知事会議であったが、3府県知事会議にパワーアップした。
- ・「スーパーはくと」という特急は京都、神戸、鳥取を結んでおり、実は関係は深い。
- ・増田総務大臣は、税収の少ない県の知事を務められ、実情のよく分かった方であり、期待している。
- ・地域間格差の是正のために、隣接しあった地域で協力しあい、研究しあうことは大切。鳥取豊岡宮津道路の開通を手始めに、観光・医療・交流の面で重要な役割を果たすと期待している。

(2)協 議

《広域的なツーリズムの振興について》

【国際的な観光ルートの開発】

(井戸知事)

- ・鳥取米子空港、大阪空港、関西空港があるのだから、うまく活用し、例えば米子イン、関空アウトなど広域的な観光ルートを共同研究などをしてはどうか。
- ・韓国からの観光ルートで、天橋立、小豆島、高松、淡路など 観光地を3泊4日くらいでぐるっと回るコースなども考えられる。
- ・3府県限定というわけではなく、広域的なモデルルートの検討をしたい。

(山田知事)

- ・広域観光はどれだけ魅力あるテーマを設定して海外と連携できるかにかかっている。それぞれの売り物として、海岸線や歴史伝統に根ざした拠点があるのではないか。こういったものを連携してインセンティブツアーを組んでいくようなことを検討してはよいのではないか。

(平井知事)

- ・米子空港のソウル便が運休するという話があったが、韓国を訪問し、継続していただけることになった。
- ・韓国旅行のルートであれば、先ほどおっしゃったルートも可能。
- ・具体的には、3府県でプロジェクトチームをつくってみて、モデルルートを考えるのがよい。特に最近では温泉・ゴルフのほか、日本らしいものが受ける傾向にある。
- ・台湾の観光需要が大きく、鳥取にもチャーター便が入るようになっている。

(井戸知事)

- ・兵庫県には、手塚治虫記念館、水木しげるさんが絵の修行をした神戸の長田、横山正輝の鉄人28号モニュメント(計画中)などがあり、京都まんがミュージアムを入れ込んだマンガ・アニメをテーマとしたコースも考えられる。
- ・中国の方が好まれるカニ・雪・温泉を中心としたモデルコースもあり、平井知事がおっしゃったように、ルート設定を検討していくのがよい。

(山田知事)

- ・韓国はゴルフと温泉だが、九州に行くか、北海道・東北が中心。

(井戸知事)

- ・韓国は一人あたり単価が低い。ゴルフと温泉と宿泊をセットにして価格を検討してみたが、兵庫ではなかなか難しい。

(平井知事)

- ・最近では、高いコースも人気がある。安かろう悪かろうでは通用せず、日本らしい旅館を好む方もいる。また、韓国では80%以上が個人旅行者になって、個人や家族単位でコースを決めるなどの傾向が出てきている。

(井戸知事)

- ・そうすれば、ホームページを共同で作るのが有効ではないか。

(山田知事・平井知事)

・そうですね。

(平井知事)

・最近、長野県松本について、韓国の旅行者からの人気上昇したが、韓国語版サイトが非常に充実していたからである。そういう点では3府県の連携可能性はある。

【山陰海岸の世界ジオパークネットワーク加盟に向けた取組み】

(井戸知事)

・北京から成田へ帰国した際、日本海側の海岸線、北アルプスなど眺めてみて、貴重な資源だと再確認した。そういう意味も込めて、ジオパーク構想についてご発言をお願いしたい。

(平井知事)

・鳥取砂丘から京丹後市にかけて、美しい海岸線があり、地質学上も評価が高い。地質に着目して研究をしたり、活用したりするため、ジオパーク制度がある。ジオパークの認定のため、新温泉町が事務局となり、(山陰海岸ジオパーク構想推進)協議会がつけられた。

・認定により、世界的に評価が高まり、観光客を呼び込む起爆剤になる可能性がある。世界遺産登録をきっかけに、石見銀山の旅行者も増えた。

・3府県に統一的なテーマとして、ジオパークの認定がされれば、観光資源として世界中へのアピールが可能。

(山田知事)

・せっかく日本海側の観光に力を入れるのだから、共通のテーマがあったほうがやりやすい。

・日本海側の海岸の美しさは素晴らしいが、売り出しにくいところがあるので、但馬、鳥取と連携して、海岸線を統一テーマとしたい。世界遺産の場合には保護を中心としているので様々な制約があるだけでなく、認定までに期間を必要とするが、ジオパーク構想というのがうまくいけばアピール性が高い。

(井戸知事)

・推進協議会が作られたばかりであるが、秋に全国の協議会から構成される日本ジオパーク連絡協議会をつくらうという動きがある。

・しかし、ジオパーク認定のための国の窓口が決まってない、認定基準が明確でないという問題もある。協議会を通じて働きかけ、横の連携を図りたい。

(井戸知事)

・世界ジオパークには、中国・ヨーロッパ諸国、イラン、ブラジルなど46地域が認定されている。今度ジオパーク国際会議が開かれたら、そこに3府県知事で行くことも考えないといけない。

(平井知事)

・北海道も手を上げているし、明確に動いた方がいいかもしれない。

(井戸知事)

- ・連絡協議会を早く発足して、早く政府要望をやっていきたい。

(山田知事)

- ・そうですね。

【国内観光の振興】

(山田知事)

- ・国内観光も重要な問題であり、観光というのはストーリー性が必要。京都府の浦島伝説、兵庫県のコウノトリ伝説などがあるので、グレードアップを狙ってルートを設定することができる。また、伝説をテーマとした観光というのは、高齢者の方に人気がある。そういった面でも共同に進めていければいいのでは。

(井戸知事)

- ・北近畿広域観光連盟、因幡・但馬広域観光キャンペーン実行委員会があるが、統一的に連携は図られているかどうか。

(山田知事)

- ・協議会同土連携をしてやっていけばいいと思う。

(井戸知事)

- ・連携の仕方も考えていかなければ。

(平井知事)

- ・東京からの旅行者は山陰地方というテーマで旅をすると、鳥取砂丘、温泉、天橋立など全部行きたいと思うようだが、意外とルート全体の地図がない。今ある2つの協議会を連携させて、一つのマップづくりを初めてみるのはどうか。旅の需要を考えると、そのようなアプローチが必要となってくるのではないか。

(井戸知事)

- ・いずれにせよ、連絡調整のためのプロジェクトチームを窓口を決めて、発足させよう。

(平井知事)

- ・台湾、韓国など国別に、さらには東京などにも発信できるように国内向けにも作ればよいのではないか。

《交流連携を支える交通ネットワークの整備促進》

【鳥取豊岡宮津自動車道の整備促進】

(井戸知事)

- ・10月に総決起大会を予定し、準備を進めている。整備促進大会の資料を配布しているが、10月13日にフォーラムと決起大会が開催される。フォーラムの講師としては谷口技監に来ていただく。ご協力をお願いしたい。
- ・鳥取豊岡宮津自動車道に北近畿豊岡自動車道をできるだけ早く連携させ、日本海側の高速道路の空白域を解消したいと考えている。
- ・環日本海、特に北東アジアの経済発展がめざましいものがあるが、兵庫県には大陸とを結ぶ港がない。幸い、境港、舞鶴港の良港を鳥取・京都はお持ちなので、連携を図りたい。鳥取豊岡宮津道路もあわせて大動脈としたい。

(平井知事)

- ・ぜひお願いしたい。無料の自動車道となるので、観光的にも効果がある。

(山田知事)

- ・地方の地域間格差の問題も大きなテーマとなりつつあるが、国土政策として、日本全体をどういう形に作り上げていくかという視点がまったくない。日本海側が中国、韓国を目指しているが、投資は相変わらず横浜、大阪、神戸に集中している。
- ・本当の意味で日本の均衡ある発展とそれぞれの地域のものを生かそうとしたら地方分権だけでは不十分であるので、国土政策として、第二国土軸をどこに持っていくんだとか、環日本海側について、中国韓国をにらんでどういう戦略を立てるといところがまったくない。第二名神も採算性で全部片付けられている。そもそも社会基盤では採算性という問題ではないはず。
- ・地域間格差の問題が端的に現れている。鳥取豊岡宮津自動車道は宮津から舞鶴・小浜と抜けて北陸自動車道とつながっていくので、太平洋側の国土軸に対抗して、もう一つの国土軸を作っていくということが、環日本海時代をにらんだ日本の戦略としては大きい。
- ・まさに中国、韓国と向き合った国際化時代を作っていく観点からも鳥取豊岡自動車道については象徴としてこれからも訴えていかなければ。

(井戸知事)

- ・前と違い、国土形成計画に戦略が欠けている。趨勢に任せようという戦略しかない。昨年12月冬柴大臣と国土形成計画についての議論があったが、あまり反応がよくなかった。
- ・今回、計画の最終段階に近いが、あまり記載がない。

(山田知事)

- ・書かれていないどころか、「過度に東京に依存しない地域をつくる」というようなことが書いてあるので、「東京に依存することを前提とした国土形成計画をつくるとか、東京に集中するんだからかわいそうだとか、書いているのがあきれられる。

(井戸知事)

- ・ブロック計画を作ることになっているが、作成の過程はともかく、法律上の作成主体は近畿整備局が作ることになっている。開き直れば、「どうぞ、国土交通省でおつくりください」というような計画になってしまっている。法体系がおかしい。

(平井知事)

- ・おっしゃるとおり、戦略性がない。やはり、日本海側の一つの軸をつくるべき。鳥取豊岡宮津自動車道は近畿自動車道の小浜線が伸びるなどして、つながっていけばよい。
- ・京都、福井に行く際、日本海側だけが自動車道がないから、産業活力の低下の原因にもなっている。
- ・北東アジアに近い日本海側をどうやって活用するかという戦略を本来国家が持たなければならないのに、欠けている。

(井戸知事)

- ・9号線の車両の種類を見ると、4割がトラック。9号線が物流の大動脈となっているが、歩道のないところが多いから、鳥取から京都まで、ほとんどが追い越し不可の道路になっている。バイパス的機能を果たさせるためにも鳥取豊岡宮津自動車道は非常に重要だ。推進大会へのご協力をよろしくお願したい。

【山陰本線の利便性の向上】

(井戸知事)

- ・鳥取県にも協力いただき、余部鉄橋の架け替え工事に着手した。これまで、架け替えられないと、冬場の山陰線の定期性が確保できないということがあり、能力強化に踏み切れなかった。
- ・2年の架け替えの間に山陰本線の活用について基本的なマスタープランを作成し、推進を図りたい。
- ・鳥取県側の山陰本線は高速化されているので、少なくとも兵庫県内も高速化を整備したい。
- ・利便性を向上させてスピードアップをさせて、電化・複線化を目指すくらいの思いで進めたい。JRあるいは国に対する働きかけをおこないたい。

【北近畿・山陰地方の誘客促進のための航空ネットワークの充実】

(井戸知事)

- ・コウノトリ但馬空港については、京都の奥丹後で、東京直行便ができればぜひ利用したいという話が以前出たと聞いている。
- ・但馬空港からぜひ羽田に乗り入れたい。羽田枠が2年後飛躍的に増えるので、ぜひコミューター機枠を確保して、乗り入れに向け、働きかけを行いたい。

(平井知事)

- ・鳥取空港も羽田発着枠を狙いたい。

(山田知事)

- ・但馬空港については、鳥取豊岡宮津自動車道とリンクすると、大きな力になる。間違いなく日本海側で東京乗り入れができると今までとは違う利便性を持つことになる。ぜひとも東京乗り入れの実現を後押ししたい。

(井戸知事)

- ・神戸空港開港の際に、但馬と神戸をつなぐ案も出たが、今の段階では利用者が見込めないこと、運行会社の理由から、今のところ乗り入れは行っていない。羽田発着枠を確保して、100名くらいの飛行機が飛ばせればよい。

(山田知事)

- ・そうなると間違いなく丹後の人は使います。

(平井知事)

- ・但馬空港が入ってくれば、鳥取豊岡宮津自動車道や山陰線を利用して観光ルートの開発がしやすくなる。
- ・交通弱者が多いので、空港を降りてからの鉄道、バス路線を広域で持つことが必要。
- ・鳥取駅や鳥取空港からのバス路線、湯村温泉行きなどを充実させてほしいという話もある。

(井戸知事)

- ・3府県共同して進めていきたい。
- ・氷ノ山の南側、482号という道路があるが、通行不能であり、(通行可能の町道を)早く国道に昇格させて、通行できるようにしようと思っている。
- ・国道429号榎峠では、大型車が兵庫県側で通行困難で、京都府側に行けば通行できる。兵庫県もがんばらなければならない。

《県境を越えた医療連携について》

(平井知事)

- ・ 県境をまたがって患者が移動してくる。兵庫と鳥取の県境は、鳥取大学の医学部が山陰地方に医者 の供給をしてきたことから人の面のつながりがある。
- ・ 医師不足問題に対策を練るため、県境をまたいだ医療間の連携、医師確保対策が必要ではないか。鳥取中央病院、岩美病院の1割は兵庫県の患者。
- ・ 効率よく得意分野をいかして連携協力する環境を整えていくことが必要ではないか。過去には医師同士の交流もあった。医師不足の現実からしっかりとした協議体制をつくったらどうかと考える。

(山田知事)

- ・ 救急医療体制の連携は重要。奈良県の事故もあった。人の命に直結する問題であるため、救急医療体制を3府県で、日本海側のものをつくっていく必要がある。

(井戸知事)

- ・ この件については全く異議はない。
- ・ 香住以西は、鳥取県にお世話になっている。鳥取県立中央病院に兵庫県からの入院が13%、外来が11%、岩美病院が入院で11%、外来が7%。公立豊岡病院には京都府から9.2%、外来が6%、福知山市民病院入院が9%、外来が6.8%。鳥取から兵庫は患者の往来はない。こういうなかでどのように連携していくか。鳥取大学には寄付講座を設けていただき八鹿病院に勤務していただいている。
- ・ 救急等の問題は重要。公立豊岡病院を但馬地域のベースにしているが難病は難しい。ドクターヘリの活用についても検討している。広域的な救急体制のあり方は十分に検討した方がよい。
- ・ 神戸市に県の防災ヘリを1機委託運営している。神戸市は2機持っているので3機で運用している。点検があっても常時2機はスタンバイできている。1機はドクターヘリ的な運用ができる。

(山田知事)

- ・ ドクターヘリの整備について今すぐにとということではなくてもテーマに掲げて広域的にやっていかないといけない。

(井戸知事)

- ・ ドクターヘリの助成制度を活用する方が、新たに専用ヘリコプターを持つより効率的。しかし、ドクターヘリの需要があるかが問題。本県が神戸市に委託しているドクターヘリ的な役割を有した防災ヘリは年間80回の需要。
- ・ ドクターヘリを持っているところの出動回数は200回と多いが、医者 の運搬や転院のための運搬の需要が半分もある。純粋な意味でドクターヘリとしての運用は100回くらい。そういう意味で本当にドクターヘリが必要か、本県では検討中。

(平井知事)

- ・ ドクターヘリは広域で持ってもよい。

(井戸知事)

- ・中国山地は気象条件で移動できない場合がある。横の移動ということであれば、日本海側で共同で保有することは考えられる。今後の検討課題とさせていただきます。

【保険医療体制の整備等に関する共同アピール】

(山田知事)

- ・療養病床の再編について、医療型から介護型へ変えると、地方の負担が増えるので国に十分な対応を要請していく必要がある。

(平井知事)

- ・厚生労働省は、制度設定が粗い感じがする。後期高齢者医療制度について75歳以上から保険料を徴収できるか問題。今後、大きな社会問題になっていくので、このようなアピールを行っていくことは大切だ。

(井戸知事)

- ・75歳以上で扶養家族に入っている方も保険料を負担しなければならない。今までは世帯主が負担していたが、75歳になったとたん自ら負担することになる。仕掛けとして、世帯主負担の仕組みを作っていかなければいけないと考えている。このへんを後期高齢者医療制度として意見を言っていかなければいけない。

《野生動物の保護管理に関する連携について》

(山田知事)

- ・動物に対しては県境はない。ツキノワグマ、シカ、サル、アライグマについて共通して対策を行わなければいけない。ツキノワグマは有害鳥獣だが、一方では絶滅危惧種でもある。京都府では、ツキノワグマ発信システムを運用しているが、こういうシステムを3府県で取り組むことを提案したい。

(井戸知事)

- ・野生動物の研究のため森林動物研究センターをこの4月からスタートさせた。野生動物の生息空間と人の生息空間が交わらなければいい。昔は奥山にえさが十分で野生動物は人里に現れなかった。奥山の管理が乱れてえさが不足し、人里に現れるようになった。これをどう改めるかを研究する機関としてセンターを整備した。ツキノワグマの目撃情報などのデータ整備を含めてとタイアップしていきたい。また、両県からも研究者を派遣いただければ。

(平井知事)

- ・クマは東の方は兵庫、京都にまたがる。保護の観点を始めている。麻酔銃を撃ち込む資格が難しい。再度人里に下りてこないような教育放獣の措置を行っているが、ノウハウが不足している。ノウハウを学ばせて頂きたい。クマ対策の連携を是非お願いしたい。

(井戸知事)

- ・シカもとても大変。鹿肉のメニューも検討することも考えないと。

(平井知事)

- ・鳥取県では鹿カレーを開発している。

(山田知事)

- ・京都でもソーセージとかを作っている。

(井戸知事)

- ・サルもやっかい。捕獲しても引き取り手がない。野生のサルは観光に使えない。香美町小代地区では、サルを追い払い犬などによって追い払う工夫をしている。
- ・お互い連携、情報交換をさせて頂きたい。森林情報研究センターの取組みを充実したい。そのため、林業普及員を活用していきたい。ヨーロッパの森林保安官制度に近い機能を林業普及員の方に持ってもらい、併せて野生動物の管理の役割を果たしてもらいたい。

《日本海における水産業の振興について》

(平井知事)

- ・日韓漁業協定の日韓暫定水域は、日本と韓国が共同資源管理すべきであるのに、事実上は韓国漁船が占領している。資源管理には疑問を持っている。
- ・日本の排他的経済水域の中に韓国漁船の違法操業が見られる。これも問題になっている。
- ・違法操業を正常化し、暫定水域の管理を正常化することを兵庫、京都とともに強く国に働きかけていきたい。島根県とは国に働きかけている。
- ・海洋観測について、本来国の仕事と考えられる。水産庁の外郭団体である(独)水産総合センターから受託として各県が割り当てられる。
- ・大変な予算が必要。鳥取県では受託調査であるが費用4千万のうち、国庫からは7百万しか補助を受けられない。国として責任を持って実施してほしい。国と地方の負担区分を明確にしていきたい。これについても両県に関心を持ってもらいたい。西日本の日本海沿岸の各府県で国に要望している。

(山田知事)

- ・本来、調査を断っても然るべき内容。

(井戸知事)

- ・海洋観測の人件費は補助を受けていない。国に対して強く要請していく必要がある。全国知事会の調査にも盛り込まれていない。追加して入れなければいけない。
- ・船舶観測を補完できる観測ブイ等の新しい観測機器の開発、人工衛星による観測等国に提案していく必要がある。また、対馬暖流域の漁海況予報として漁業者へ迅速に提供するシステムの構築も提案していきたいと考えている。
- ・日韓漁業共同水域の適正操業については、香住の組合長が交渉団の団長になり日韓民間漁業団体協議を行っており7月11日に一応の合意ができ、これを担保するための措置を韓国政府に要請しているところ。9月には会議が開催最終合意の見通しと聞いている。様子をおみておく必要がある。

(平井知事)

- ・「新日韓漁業協定関連対策特別基金制度」が平成19年度で終了となる。基金制度の延長も要請したい。

(井戸知事)

- ・青木先生を中心に島根、鳥取、兵庫で水産庁と外務省に要請活動を行っていた。今年も年末ぐらいに要請活動を行うべく準備をしていると思われるのでその時はよろしく願いたい。

《第二期地方分権改革の推進》

(井戸知事)

- ・「8月27日に安倍改造内閣が発足し、地方分権改革の推進に積極的に取り組んでこられた増田前岩手県知事が総務大臣に就任された。」というフレーズを挿入させていただいた。

(山田知事)

- ・このアピールの中でその部分が一番の大きなポイント。

(井戸知事)

- ・「地方分権改革や都市と地方の格差是正対策に対する安倍政権の強い決意の表れであり・・・」と評価させて頂いた。
- ・国と地方の役割分担の見直しと権限・事務・財源の一体的移譲、二重行政の解消、国と地方の税源配分の見直し、税源移譲にあたっての地域間の調整、「地方共有税制度」の実現、「地方行財政会議(仮称)」の法律による設置、平成20年度の地方交付税の総額の確保、地方交付税の法定率の堅持等は、7月の全国知事会の基本的方向と同じ。
- ・道路特定財源の安定的確保と地方への配分強化を項目を強く柱立てて入れている。「また、国の産業、経済、文化の発展に大きな役割を果たしている高規格幹線道路及びそれと一体となってネットワークを形成する基幹道路については、シーリング枠外で道路特定財源を充当し、重点整備と地方負担の軽減を図る新たな制度を創設すること。」の意味は、シーリングの枠の中で対応すると道路目的財源のオーバーフローがますます大きくなり、道路整備の必要性とは無関係になるので、オーバーフローに占める緊急道路分(地方分)は、道路特別会計に直入させる。同じように基幹道路整備の必要性の高いものを再度指定し、その部分についてもシーリング枠外で道路特別会計に直入させる仕組みをつくればと考えている。

(平井知事)

- ・国家の意志を持って道路ネットワークをつくる。日本海側の国土軸を形成することを訴えていきたい。
- ・ふるさと納税について、国税も対象に入れるという考え方を持ってもよい。税源移譲の効果をただすことを盛り込みたいが、このアピール文で読めるので差し支えない。

(山田知事)

- ・京都府、鳥取県は国税も含めて検討すればよいと考えているが、兵庫は反対と。

(井戸知事)

- ・その部分は、まだ、言及すべきではない。

(山田知事)

- ・総務省の検討部会のふるさと納税の資料の中に国税を検討するという項目が入っている。後押しする必要がある。

(井戸知事)

- ・寄付金控除は所得税もある。寄付金控除を中心とする税制上の仕掛けといえ
ば、所得税も含める。
- ・税源配分の議論とふるさと納税の議論が混在する危険がある。なぜ、税源配
分をこんなちょっとした形でかえるのか。矮小化されている。

(山田知事)

- ・寄付金控除は当然所得税も入っていると理解している。

(井戸知事)

- ・税源配分は、5 : 5 になってもだめ。今年の予算 25 兆について、国債で事
業やっている。支出ベースで地方が 6、国が 4 の場合、6 の財源は、赤字国
債を財源にしている部分がかかり多い。税源配分だけ 5 : 5 にしてもまかな
いきれない。そのところの表現が難しく知事会の表現にとどめている。

(山田知事)

- ・一里塚としては 5 : 5 でもよい。赤字国債はあとの問題として整理してい
かないとややこしくなる。

(井戸知事)

- ・最近の財政学者は、交付税を入れると既に税源配分は 4 : 6 となっていると
言う。まさしく 4 : 6 となっている。だからいいじゃないかという主張が
かなりはびこっている。特に若い財政学者。それに対して税の配分だけでは問
題である。

(平井知事)

- ・5 : 5 くらいが限界と見る人たちがいるだろう。垂直的な財政調整を排除し
てしてしまうと、横で東京都と財政調整を行わなければいけなくなる。

(山田知事)

- ・交付税のありかたが変わってきて、交付税の位置づけによって 5 : 5 をどの
ように考えるか、さけられない。今、この議論を始めると違う方向にいつて
しまう。

(井戸知事)

- ・新型交付税をつくった。新型交付税の積算基礎は、単独事業部分である。そ
うなってくると 9 : 3 という交付税となる。国と地方との共同事業の地方負
担分の財源保障制度となる。まさしく交付金となる。そういう方向付けをど
う考えるか課題。

(山田知事)

- ・問題は交付税の政策的ベースを整理して、国として地方との共同事業に対し
て我々はこれだけ負担するのだと言うことに純化すべきである。地域におけ
る個性的な事業については、税源移譲によってまかなっていくべきだとい
うのが筋。もう一度、地方財政計画の中身をしっかりと議論して、その中で順
番に物事を解決していかないといけない。一朝一夕に解決しようとする
と訳がわからなくなる。

(井戸知事)

- ・増田大臣によく相談を受けられるように我々が体制をつくっておく必要がある。早速、今年在地財計画の編成から考えていく。
- ・データを示してほしい。解析できない。

(山田知事)

- ・決算乖離状況が全く変わらない。同じように減っていくだけ。単独事業の地財計画を減らすと決算額も減っていく。みごとなまでの平行線を描く。続けていけば、単独事業が0になっていく。

(井戸知事)

- ・そのような地財計画の編成をしていくと、一般余裕分がほとんどなくなる。
- ・規模是正は今は、全く行われていない。以前は、規模是正で水準の見直しを行っていたが今は作業されていない。矛盾が出てきている。
- ・例えば、人件費の構成措置額と実人件費との差額は、実人件費の方がかなり多い。全国データで見ると1割ぐらい多い。
- ・分析をした上で秋までに申し入れをしたいと思っている。

4. 記者会見

(朝日新聞)

- ・今回、知事会議がはじめてということで、各知事が印象に残った点は？
- ・広域的ツーリズムについて、今後の展開は？今後の会議の予定は？

(井戸知事)

- ・広域的なツーリズムについては、フォローアップが重要なので担当部局の連絡会議を設置し協議を進めていきたい。
- ・3府県の知事会議は年に1回開催したい。福井県も入って頂くこともあるかもしれない。環日本海会議として進めていくということがいいと考えている。今後も継続していく。
- ・鳥取豊岡宮津自動車道のような地域連携を支えるネットワークの整備促進について、共通理解が得られたことが第一。もう一つ、県域を越える医療確保について、特に救急体制については、ネットワークをつくる方向で議論を進めていくという意見の一致は大きな成果。

(山田知事)

- ・地域間格差、地方の疲弊という言葉が踊っている。太平洋側と日本海側のおかれている環境の違いに目を向けていかなければならない。国土軸を中心に太平洋側の整備が進んでいく中、日本海側は遅れた状況。医師確保の問題も日本海側の問題。日本海側は国家戦略として大きな位置づけを持っていかなければならないのに忘れられている。それに対して、3府県で基本的な連携を確認し、アピールをすることで、問題点を明らかにできたことは大きな成果。ジオパーク、医療、観光などの広域連携について、具体的な動きが明確にできたことは大きな成果。

(平井知事)

- ・瀬戸内海側、太平洋側に比べて、日本海側はインフラ整備が遅れている。地域間格差をはねかえそうと3府県が連携する合意ができたことは大きな成果。観光客、経済産業はつながっている。日本海側は交流のネットワークが出来ている。これを共通認識として、広域的な観光ルートをつくる、台湾、韓国からの観光客を呼び込む仕掛け、鳥取豊岡宮津自動車道を中心としたネットワークをつくる土俵が出来たことは高く評価したい。
- ・鳥取県は近畿の枠の中から外れている。北近畿と鳥取はつながっている。今まで鳥取県は近畿とのつながりを意識していなかった面がある。本日、海岸を視点として、同じ土俵に入ることができたのはエポックメイキングだと思う。鳥取県の中では道州制をにらんだ議論があるが、近畿との行政的なつながりをもっと重視したいと意識できた会議であった。